



横浜国際園芸博覧会基本計画（案）（概略版）

開催概要

■ 基本認識

2027年開催に向けた 課題認識

- ・地球環境を次の世代へ継承
- ・2050年のあるべき姿からバックキャスト

DXやCOVID-19による 価値観の変化の加速

- ・情報通信技術に支えられた共生

国および横浜市の
将来戦略の視点

横浜と上瀬谷の
ポテンシャル
・人と自然の関係から
生まれる価値を再評価

過去博覧会等の
継承

国際園芸博覧会の具体化に向けた方針

世界共通の課題解決に向け、2050年を見据えた、
人と自然の関わりが「幸せ」となり、主体的な参加を促す社会モデルを、
横浜・上瀬谷から世界に発信し、次の文明の先駆けとなる祭典とする

■ 開催概要

開催期間	2027年3月～9月（6か月間）
参加者規模	1500万人以上 （ICT活用や広域・地域連携などの多様な参加形態を含む） （有料来場者数 1000万人以上）
博覧会区域	約100ha
開催組織	2027国際園芸博覧会協会（仮称）
開催事業費	会場建設費：240億円（情報通信基盤等は含まない） 運営費：360億円

■ 開催場所



旧上瀬谷通信施設

横浜市北西部（旭区・瀬谷区）にある面積約242haの平坦な土地。長年米軍に提供していたが、2015年6月に返還された。農業振興と都市的土地利用による新しいまちづくりを進めており、郊外部の活性化拠点として大きなポテンシャルを有している。

■ 基本認識

SDGs目標年次の先にあるべき姿からバックキャストし、質的な豊かさを求める社会において、人と花・緑や自然との関わりが「幸せ」となる新たな関係を提示

■ テーマ

幸せを創る明日の風景

Scenery of The Future for Happiness

■ サブテーマ

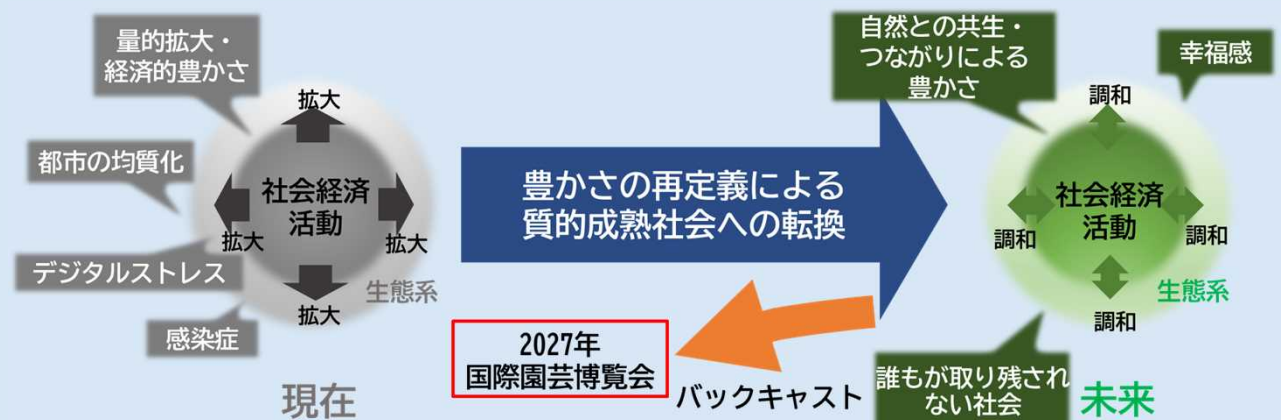
テーマ実現の切り口

自然との調和
Co-adaptation

緑や農による共存
Co-existence

新産業の創出
Co-creation

連携による解決
Co-operation



■ 事業コンセプト

全ての関係者が共有する方針・方向性

価値を
再定義する
Revise

多様性に気付く
Find

行動変容に
繋げる
Change

分かち合う
Share

環境負荷低減を
徹底する
Care

繋がりを広げる
Connect

■ 会場コンセプト

会場整備・演出の基本方針

里山で培われた思想・行動が未来を広げ、
花と緑が輝き、人と自然が共に紡ぐ明日の風景
“The Philosophy of Satoyama” opens up the possibilities.
“Flower, Greenery, Nature and Human” create ideal landscapes of the future.

テーマへの訴求力の高い展示、国際色豊かな庭園や魅力的な植物など多様性に富んだ展示

庭園

各国・各地の風土・文化・伝統や花き・園芸産業を支える技術など多様な庭園



花き等

高品質な花きや各国・各地の魅力的な植物、最先端の育種技術の展示



テーマ展示

テーマ・サブテーマを体現し、魅力と話題性が高い展示

(例) 誓いの樹

地球規模の環境危機を乗り越え、持続可能な社会を実現するために、多様な主体が、自らの行動、想いを誓いの木に託し、博覧会の象徴となり、リアルとバーチャルが連動する人工の“樹”を育成



(例) 「種」ミュージアム

遺伝子資源、遺伝的多様性、人から人へ種が継承された歴史をICTを活用した展示で学ぶとともに、農家やNPO等と連携した種採取体験などを通し、新たな園芸・農業の振興につなげる。

花き・園芸を中心とした産業の発展や、国際的なつながりを醸成を図る行催事

屋内庭園・屋外庭園コンペティション

常設展示される各国・各地の庭園のコンペティション

製品コンペティション

花き等観賞用植物、果物、野菜等のコンペティション (例)

- ・カーネーション(日本の高い技術を発信しブランド化)
- ・盆栽(日本文化の発信)
- ・バラ(日本はバラの自生地)
- ・ユリ(開港時、横浜からのユリ根の輸出の歴史)
- ・フルーツ(日本の高付加価値の果物で高付加価値化)



独自企画のコンペティション



テーマ実現に向けた独自コンペティション (例)

- ・グリーンインフラの実装
- ・住民が主体的にまちづくりに関わるグリーンコミュニティ
- ・ICTを活用した「農のある暮らし」
- ・横浜野菜を用いた料理
- ・花き・園芸産業の発展に資する取組
- ・農法指定で育てた作物

公式行催事等

セレモニーやナショナルデー・スペシャルデーなどの公式行催事、および参加者がテーマに即して実施する行催事



- ・身近な自然とともに暮らす農的生活を幸せに満ちたものとするために、横浜・上瀬谷ならではの「里山」的風景を提案
- ・上瀬谷の自然特性を最大限に活かしながら、里山に蓄積された知恵や人が関わる仕組みを重視し、人類が直面している地球規模の課題解決に貢献

地形的特徴、動線特徴、機能的特徴を勘案して配置



Village（テーマを体現する多様なコンテンツの集合体）を会場内に分散配置

- ・会場内に6つのVillageを配置
- ・テーマの体現につながるメッセージを各Villageに設定し、多様な価値観の人々を集める
- ・各Villageでは、展示や庭園、飲食などの様々なコンテンツを配置し、来場者に様々な切り口でメッセージを提示



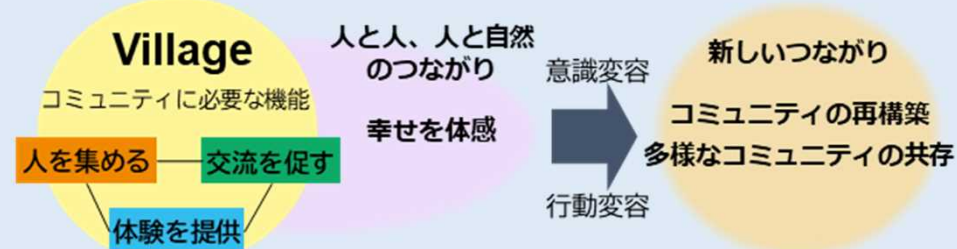
コンテンツの分散配置によるサブテーマの体現



動線計画	植物管理	景観計画	グリーンインフラ計画
安心、安全で快適な移動を実現する来場者動線と運営を支える管理動線等を並列	試験植栽圃場やストックヤード、輸送品の検疫や保税を行う機能の整備	- 上瀬谷の自然特性の活用 - 時間や移動による風景の変化	自然と人からの視点の両立を目指し、緑の持つ存在効用と利用効用を両立

Villageによるコミュニティの再構築

- ・人は人や自然とのつながりに「幸せ」を感じるが、ICTの進展や価値観の多様化に伴い、地縁に代わる共通要素（理念や趣味など）を介したコミュニティのあり方が多様化
- ・Village内の各コンテンツが、コミュニティ構築に必要な機能（人を集める、交流を促す、体験を提供する）を担う
- ・Villageにおける体験をきっかけとして、参加者が自らの暮らしの中で新しいつながりをつくり、コミュニティの構築や維持に関わるような仕組みを展開



■ 事業構造

会場の基盤については、将来のまちづくりを見据え、土地区画整理事業および都市公園事業等により計画的に整備

<基盤整備の考え方>

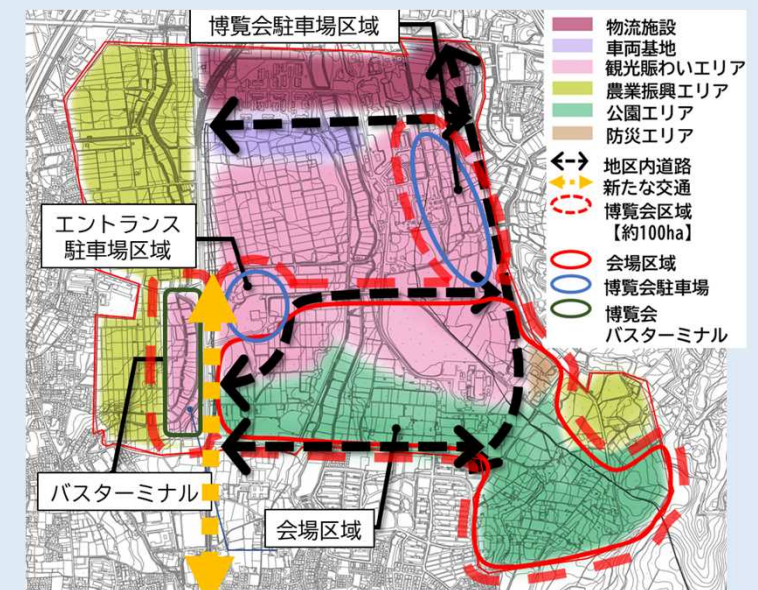
3層：造園、演出、 建築、施設etc.	〈博覧会事業〉 演出修景、出展作品、仮設物	〈博覧会事業〉 演出修景、出展作品、仮設物
	〈都市公園事業〉 造園修景、工作物、建築物	〈今後調整〉 造園修景、工作物、建築物
2層：園路広場、インフラ	〈都市公園事業〉 通路、広場、上下水、電気	〈今後調整〉 通路、広場、上下水、電気
1層：造成（土工）	〈土地区画整理事業〉 造成、基幹インフラ	

都市公園区域
約45ha

観光賑わい区域
約35ha

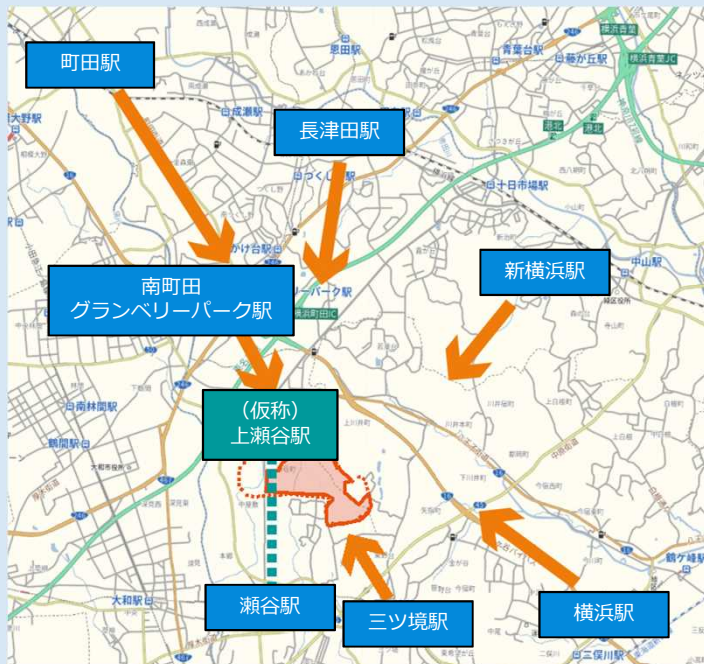
■ 将来の土地利用

博覧会区域は「観光賑わいエリア」「公園エリア」「防災エリア」にまたがって設定し、開催後の土地利用にあたっては、計画地全体でそのレガシーを継承・発展



■ 輸送計画

- ・新たな交通システム及び周辺各駅からのシャトルバスによる輸送を基本
- ・公共交通への転換により、自家用車による来場を抑制し、周辺道路渋滞を緩和（2050カーボンニュートラルの実現を先導）
- ・会場外駐車場を整備し、「パーク＆ライド」を実施



■ コミュニケーション計画

博覧会開催までの全体のスケジュールに沿って、年次計画を立て、効果的にコミュニケーションを展開

認知度・参加意欲の向上
(2021~24年)

○BIE承認 ○参加招請
★2022アルメレ

参加機運の醸成・参加の実現
(2024~27年)

○会場整備 ○前売券発売 ○博覧会期間
★2023トール ★2025大阪・関西万博

レガシー継承・発展
(2028年~)

・本博覧会の認知度を高める
・本博覧会に対する地域住民の理解を深める
・コロナ禍で得た知見を活かしたコミュニケーションを実施する

・定期的にコンテンツを広く発信する
・参加国間の調整や出展のフォローを行う
・支援を促進させるインセンティブを与える

・本博覧会成功への感謝を各方面に伝える
・共創事業を継続させ、社会課題の解決を促す

■ 資金計画

- ・会場建設費 240億円（情報通信基盤等は含まない）
財源：国、地方自治体、民間の負担を想定
支出：出展関係建設費、サービス・管理施設整備費、庭園・花壇・緑地の整備等
- ・運営費 360億円
収入：入場料収入が中心、物販収入等
支出：事業運営、会場管理、観客対策、広告宣伝費、庭園・花壇・緑地の維持管理費等

■ レガシー計画

計画段階において、各サブテーマから展開されるレガシーの方向性を描き、博覧会を通じて結実

意識変容
行動変容

花き・園芸・農業
の発展

将来まちづくり

新たな価値の創出

多様な主体の連携
の普及

新たなライフスタイル

グリーンインフラ
モデルの発信

普遍的価値の再定義

花き・園芸文化
の定着

人材教育・育成

公園施設の活用

グリーンシティの展開